

ハンドレバーユニット

取扱説明書



- 本取扱説明書をよく読み、御理解いただいたうえで御使用下さい。
- 不適切な取扱い、整備は、危険を招く恐れがあります。

三陽商事株式会社

本 社 〒563-0255 大阪府箕面市森町西3丁目2番45

TEL (072) 736-8834 FAX (072) 736-8961

東京営業所 〒108-0014 東京都港区芝4丁目9番3号（芝石井ビル）

TEL (03) 3769-3434 FAX (03) 3769-1033

名古屋営業所 〒460-0003 名古屋市中区錦1丁目20番25号（YMDビル）



TEL (052) 231-3455 FAX (052) 231-3566

目 次

1. 安全上の御注意	P 1
2. 使用目的	P 1
3. 構造及び作動	P 2
3-1. 構成部品	P 2
3-2. 作動	P 6
4. 取り扱い手順	P 6
5. 注意事項	P 7

1. 安全上の御注意

これらの安全導入事項は危険な状態・設備機器破損を防ぐことを目的としています。
 ここでは、“警告”・“注意”によって危険状態のレベルを示しています。
 安全確保のためには、ISO・JISの安全慣習を参照して下さい。

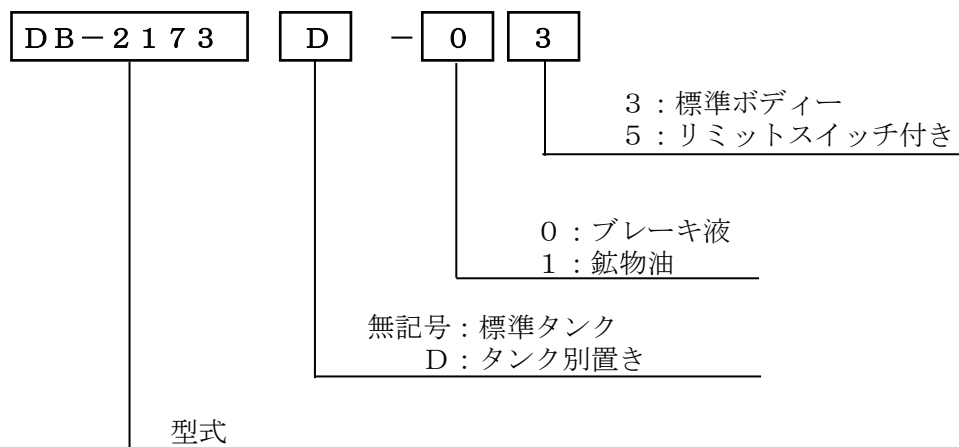
 警告	誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示します。

2. 使用目的

このハンドレバーユニットは手動操作により油圧を発生させ、油圧ディスクブレーキを作動させるための油圧発生装置です。

御使用願う場合、油圧発生装置の容量と使用するブレーキ容量が合っているかどうか御確認願います。

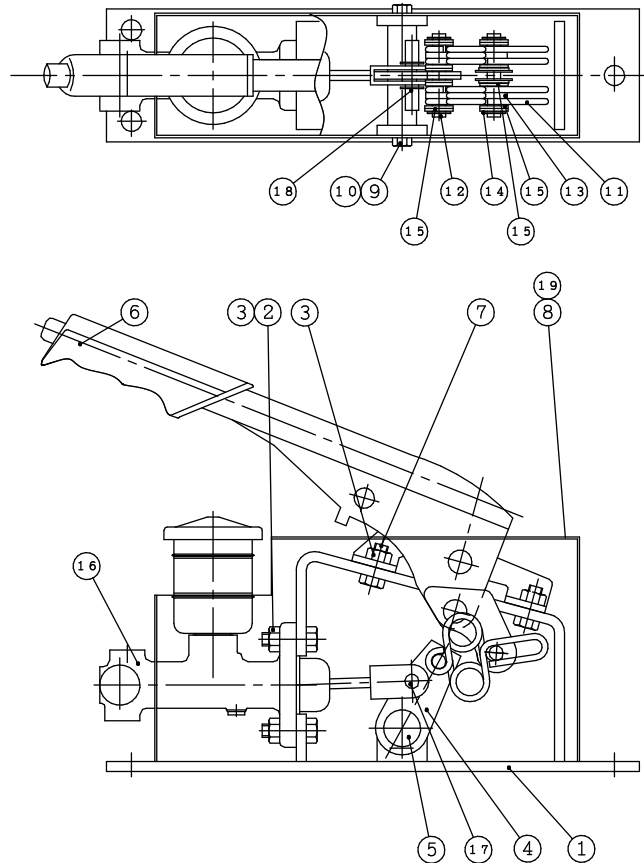
型式と表示記号



3. 構造及び作動

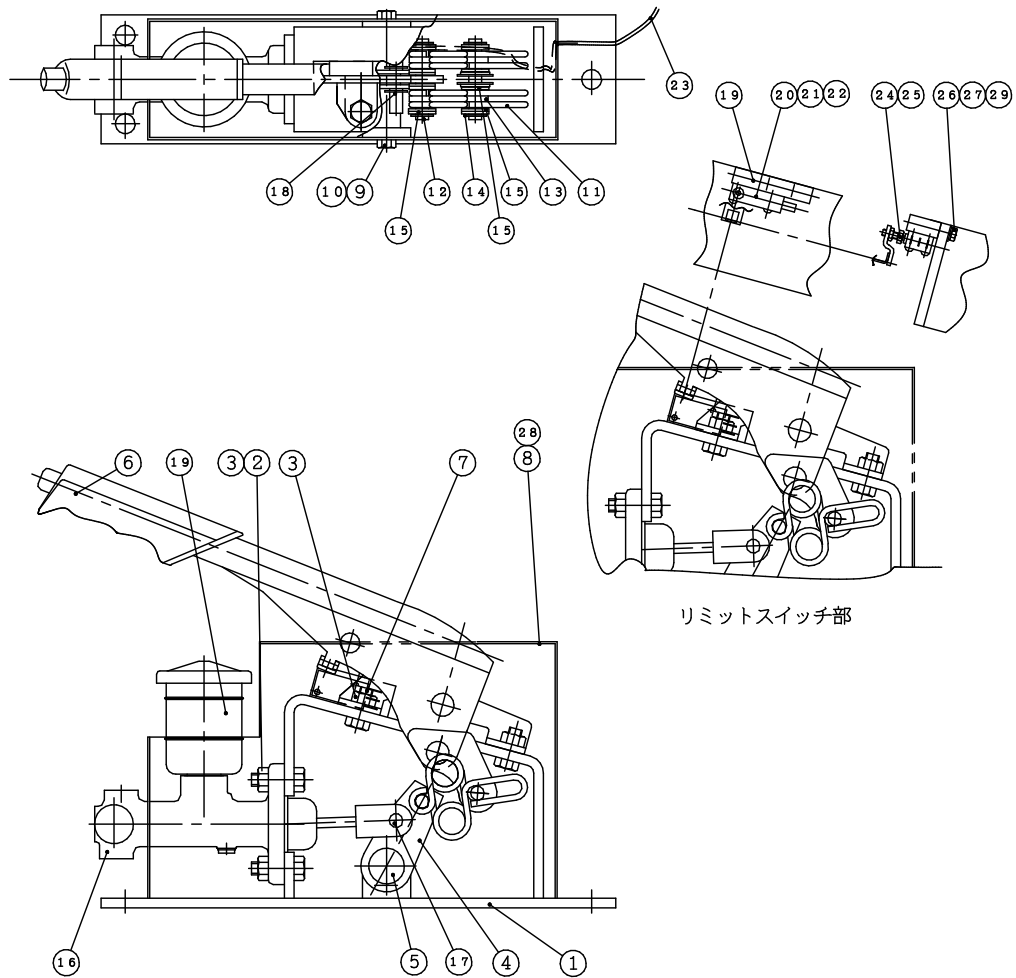
3-1. 構成部品

DB-2173-03・DB-2173-13



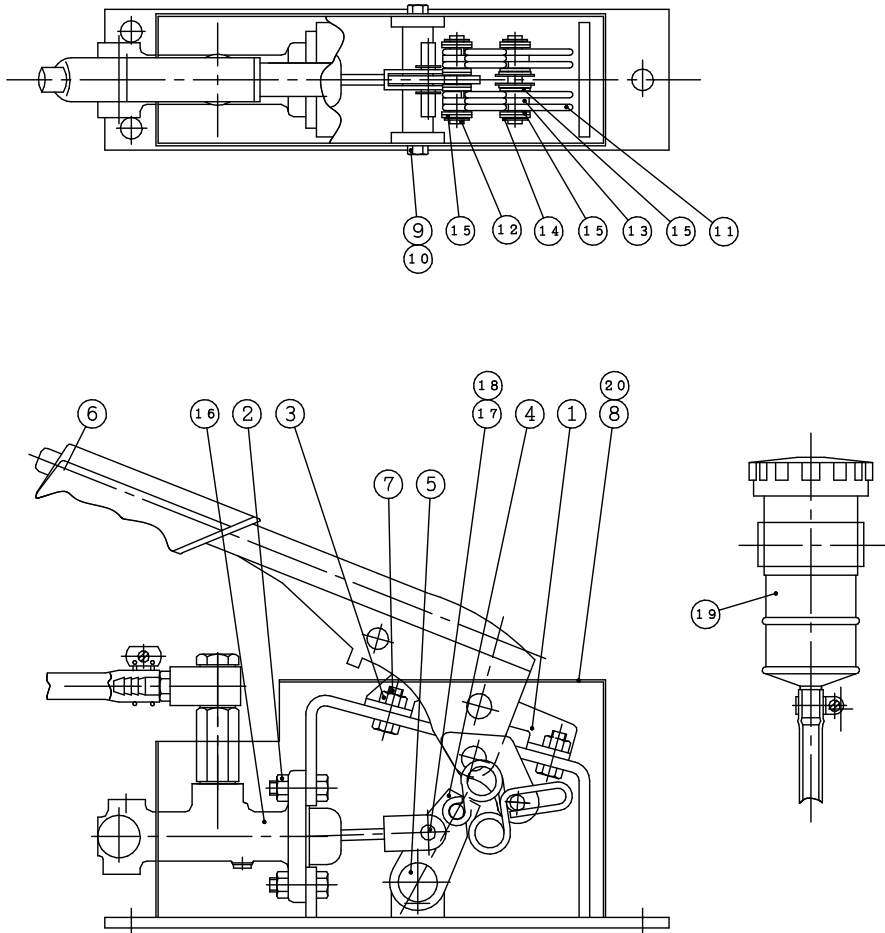
10	平座金	2	19	銘板 A s s y	1
9	六角ボルト	2	18	スナップピン	2
8	カバー	1	17	ピン	1
7	六角ボルト	2	16	マスターシリンダー	1
6	ハンドレバー	1	15	平座金	6
5	ピン (G)	1	14	E形止め輪	4
4	リンク	1	13	スペーサー	6
3	六角ナット	4	12	ピン (A)	2
2	六角ボルト	2	11	キープスプリング	4
1	本体	1			
No	PARTUCULARS	QTY	No	PARTUCULARS	QTY

DB-2173-05・DB-2173-15



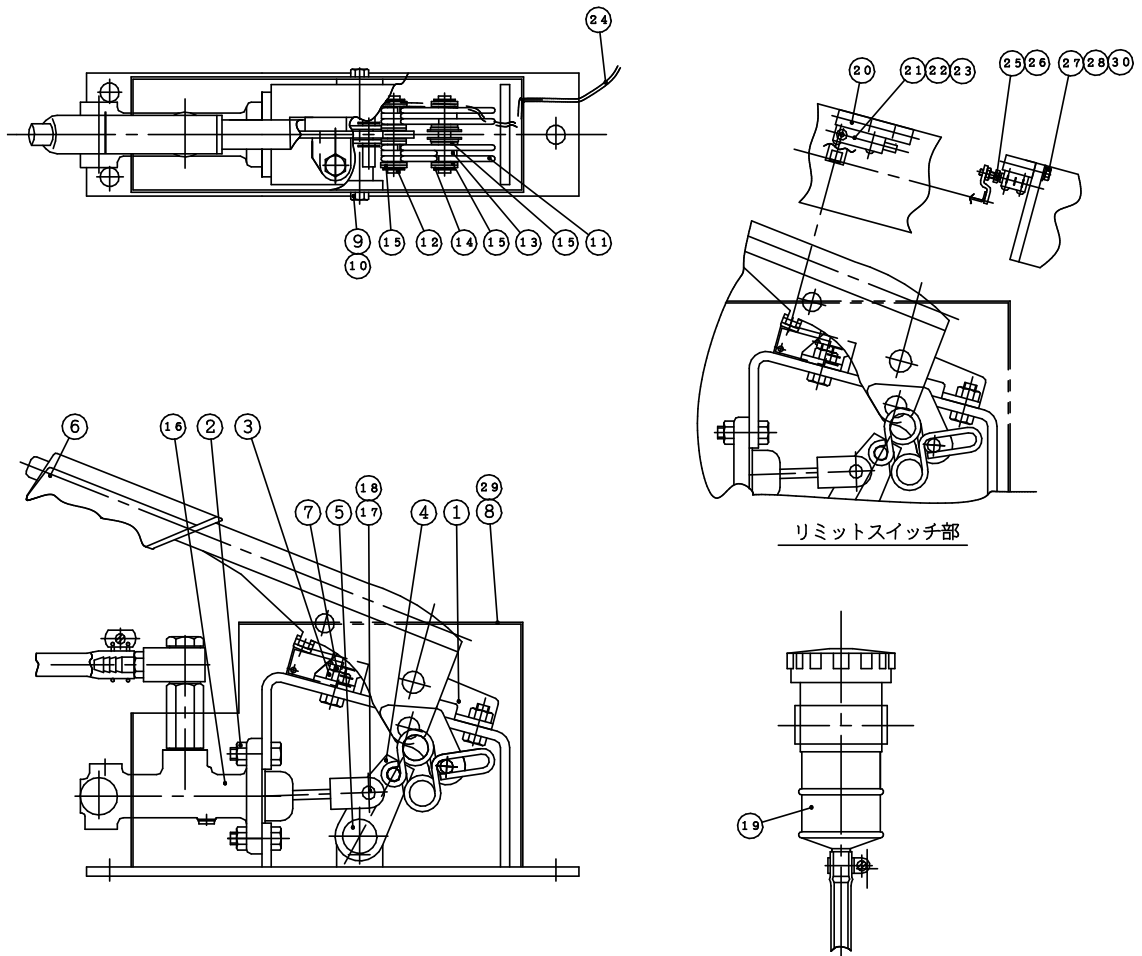
15	平座金	6			
14	E形止め輪	4	29	平座金	2
13	スペーサー	6	28	銘板 A s s y	1
12	ピン (A)	2	27	バネ座金	2
11	キープスプリング	4	26	六角ボルト	2
10	平座金	2	25	六角ナット	1
9	六角ボルト	2	24	六角ボルト	1
8	カバー	1	23	ケーブル	1
7	六角ボルト	2	22	差込み型接続端子	3
6	ハンドレバー	1	21	十字穴付なべ小ねじ	2
5	ピン (G)	1	20	リミットスイッチ	1
4	リンク	1	19	ブロック	1
3	六角ナット	4	18	スナップピン	2
2	六角ボルト	2	17	ピン	1
1	本体	1	16	マスターシリンダー	1
No	PARTUCULARS	QTY	No	PARTUCULARS	QTY

構成部品 : DB-2173D-03



10	平座金	2	20	銘板 A s s y	1
9	六角ボルト	2	19	タンク A s s y	1
8	カバー	1	18	スナップピン	2
7	六角ボルト	2	17	ピン	1
6	ハンドレバー	1	16	マスターシリンダー	1
5	メインピン	1	15	平座金	6
4	リンク	1	14	E形止め輪	4
3	六角ナット	4	13	スペーサー	6
2	六角ボルト	2	12	ピン (A)	2
1	本体	1	11	キープスプリング	4
No	PARTUCULARS	QTY	No	PARTUCULARS	QTY

DB-2173D-05



15	平座金	6	30	平座金	2
14	E形止め輪	4	29	銘板 A s s y	1
13	スペーサー	6	28	バネ座金	2
12	ピン (A)	2	27	六角ボルト	2
11	キープスプリング	4	26	六角ナット	1
10	平座金	2	25	六角ボルト	1
9	六角ボルト	2	24	ケーブル	1
8	カバー	1	23	差込み型接続端子	3
7	六角ボルト	2	22	十字穴付なべ小ねじ	2
6	ハンドレバー	1	21	リミットスイッチ	1
5	ピン (G)	1	20	ブロック	1
4	リンク	1	19	タンク A s s y	1
3	六角ナット	4	18	スナップピン	2
2	六角ボルト	2	17	ピン	1
1	本体	1	16	マスターシリンダー	1
No	PARTUCULARS	QTY	No	PARTUCULARS	QTY

3-2. 作動

ハンドレバー (6) は、ハンドレバー、キープスプリング (11) を介して、マスターシリンダー (16) のピストンロッドと連結されています。ハンドレバーで油圧を発生させる場合、ハンドレバー部 (6) のノブを押し、ラチェットのかみ合いを外し、上方へハンドレバーを引き上げると油圧が発生します。この場合も、引き上げ力と油圧は比例します。しかし、ハンドレバーとピストン間にキープスプリングを介していますので、キープスプリングの能力により、最高油圧は規制されます。除圧する場合は、ハンドレバー部のノブを押し、レバーを下方へ完全に復帰させて下さい。



完全に復帰しないと油圧が0とならないため、
事故が発生する恐れがあります。

4. 取り扱い手順

1. 油圧発生装置を取り付ける。
2. ブレーキと油圧発生装置間の配管をする。
3. リザーブタンクを取り付ける。(ブレーキにより油圧発生装置の取り付け高さが低い場合) 他は本体に付いている。
4. リザーブタンクと油圧発生装置間を配管する。
5. リザーブタンクにブレーキ液を入れる。
6. ブレーキ側ブリュードスクリューを緩め、ハンドレバーを押してエア抜きをする。
7. エア抜き完了で終わり。

5. 注意事項



注意

使用油を確認願います。

ブレーキ液か、鉱物油かの確認。



注意

ブレーキを作動させない時、ハンドレバーを完全に戻して下さい。

油圧が発生するため、事故が起こる可能性があります。

- 本ハンドレバーによる、長時間の油圧保持（ブレーキ保持）は出来ません。
（雰囲気温度の変化、封入液量等により保持液圧の変化が著しく現れます。）